

注意① 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。

注意② 字数が指定されている設問では、「」や「」も一ます使いなさい。

No. 1
受験番号
算用数字

1

中学生の西村さんは、学校公開日に来校する保護者に制服に関するアンケートを実施することになった。
【場面1】～【場面3】における会話を読んで、①～④に答えなさい。

【場面1 職員室にて】

先生 今日学校公開日になっていきます。生徒会の皆さんには、休み時間を利用して、来てくださった保護者の方々に制服に関するアンケートを実施してもらいます。アンケートの趣旨をきちんと理解して、失礼のないように、皆さんの意見をまとめてきてください。

西村 シュシ……？

先生 アンケートの結果は、今後、制服を改定する際の資料として活用します。私も校舎内を巡回していますので、わからないことがあれば声をかけてください。では、よろしく願います。

【場面2 渡り廊下にて】

西村 こんにちは。生徒会の西村と申します。制服に関するアンケートにご協力お願いします。現在の制服について問題点があれば、教えてくださいませんか。

保護者A 入学時の経済面での負担が大きいです。現在の価格よりも二割程度安くなると、助かると思います。

保護者B アイテムごとの価格の見直しも大切ですが、冬のコートなどは学校の規定以外のものも着用可能になれば、普段着と使い分ける必要がないので、負担を減らすことができますと思います。

西村 そうですね。他には何かありますか。

保護者C 私は制服のデザインは素敵だと思うのですが、シャツはもう少し動きやすく、しわになりにくい素材を使用してもらえるとありがたいです。

西村 確かに、毎回アイロンをかけるのは大変ですよ。中学校生活の途中で制服が破れたり、小さくなって着られなくなったりすることがあります。また、家にある不要な制服を処分したいという人もいます。

保護者D そのような人たちのために、学校内に専用の掲示板を設けて、お互いが情報交換できるようにするのはどうでしょうか。

西村 それはいいアイデアですね。

保護者E ところで、このアンケートの結果は、どう生かされるのですか。

西村 すぐにはありませんが、今後、何かの役に立つと思います。

保護者E そうですか。わかりました。

西村 皆さん、貴重なご意見、どうもありがとうございます。

【場面3 職員室にて】

先生 お疲れさまでした。アンケートに対する反応はどうでしたか。

西村 いろいろなお意見が出て、とても参考になりましたが、メモを取りながら話を聞くのは難しかったです。

先生 上手に相手の話を引き出せていたと思いますよ。ただ、Eさんは自分の質問に対する西村さんの答えに、少し納得がいかない様子でしたね。

西村 そうでしたか。自分が質問される側になると思っていなかったたので、曖昧な答えになってしまいました。

先生 はつきりと方向性を示して、「このアンケートの結果は、◎」と答えればよかったです。

先生 最後に笑顔で挨拶してくれていたから大丈夫でしょう。近いうちに、学年便りで保護者の方々にアンケートのお礼をお伝えしますね。

① 「⑥アンケートの趣旨」とあるが、この表現は西村さんによく伝わらなかった。これを西村さんにとってわかりやすい表現に改めるとき、適当な言葉を解答欄に合うように三字以上五字以内で書きなさい。

② 「⑥教えてくださいませんか」の「もらえ」を適当な謙譲語にして、傍線部⑥全体を書き改めなさい。

③ 【場面2】の部分の、保護者A・B・C・Dのいずれかの発言について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれか。一つ答えなさい。

ア 一般的な評価について触れたうえで、部分的な改善の必要性を訴えている。

イ 具体的な改善策や数値目標には言及せず、漠然とした要望のみを伝えている。

ウ 他の案の問題点を指摘しつつ、異なる視点に基づく新しい案を提示している。

エ 具体例を挙げて聞き手の理解と共感を促したうえで、改善策を示している。

④ ◎ について、西村さんは先生との会話の中で反省点に気づいた。【場面1】～【場面3】における会話の内容を踏まえて、◎に入れるのに適当な言葉を、解答欄に合うように十五字以内で書きなさい。

No. 2
受験番号
算用数字

2

次の文章は、中学校のソフトボール部を退部したハルが、あきらめきれずに戻ってくる場面である。ハルは樹里とバッテリーを組んでキャッチャーを務めていたが、夏の地区大会目前に樹里のコントロールが乱れ、二人の関係にもきしみが生じていた。ハルは樹里が肩を痛めていることに気づいて心配が募り、自分の気持ちをこまかすのはやめようと決意した。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

しばらくぶりに、ソフトボール部の部室の前に立ったときは、足がすくんだ。みんなの反応が怖い。徹底無視されたらどうしよう。拒否されたらどうしよう。それでも、このままソフトボールをあきらめる気にはどうしてもなれなかった。

樹里の、ハルへの風当たりの強さがどこから来るのか、相変わらずハルにはわからなかった。ただ推測するだけだ。一つだけ言えるのは、**③**樹里は今、ぎりぎりのところで自分を支えているのだろうということ。だけどたとえそうであっても、それは樹里の問題であり、ハルが自分のやりたいことをあきらめてまで背負うべき筋合いのものではない。やつとそのことに気がついた。

——真剣に生きる。
 そう心に決めた。その真剣さが、いつか人の心にも届くことを信じて、まっすぐに自分の道を進もうと思った。
 ハルは部室のたてつけの悪いドアに手をかけた。

「ハル！」マルちゃんが抱きついてくれた。
 「おかえりー」トンコたちも言ってくれた。**④**拍子抜けするくらい、みんなふつうだった。なんだ、気にしてたのはうち一人？ 樹里だけは、赤い顔して横を向いた。

キャッチャーへのこだわりは捨てていた。ソフトボールさえできれば、それでいい。ハルは積極的にフィールドイングの練習に励んだ。ねらっているのは、ライト。飛んでくるボールをしつかりとグラブでキャッチし、すばやく正確にスローイング。生き物であるボールは**⑤**で、何度やつても飽きることはなかった。スローイングがもたついた。ああ、送球をもっと正確にやらんと。課題はいくらでもわいてきた。体が喜んでる。その手ごたえがうれしかった。

やっぱり樹里は肩を痛めている。外野に立っていると、キャッチャーボックスにしゃがんでいるときには見えなかった、樹里の別の姿が見えてくる。マウンドに一人立つ樹里の後ろ姿は孤独だった。勝気な瞳が見えないぶん、素の樹里が透けて見える気がした。まるで、迷子の子どもが懸命に肩を怒らせて、泣くのを我慢しているように見える。

右の肩に違和感があるのか、一球投げ終わるごとに、樹里はグラブをはめた左手を肩のあたりに持っていた。無意識であるぶん、痛々しかった。トンコはまったく気づいていないようだ。

練習が終わって、整理運動の集合がかかったとき、思い切った背中ごしに声をかけた。

「肩、痛いinchやう？」ギョツとしたように、樹里は振り返った。
 「なんで？」逆に問い返された。
 「う、うん、なんかそう思っただけ」
 笹の葉のような目がハルをにらむ。思わずあとずさったほどの強さだった。

「なにが言いたいん？ うちをピッチャーの座から引きずり下ろしたいわけ？」
 ええっ？ ハルは心底驚いた。なんでそうなるわけ？ 樹里の思考回路についていけない。
 「うちは辞めんよ。ハルみたいにすぐに逃げだすような弱虫とはちがうよ！」

いつもクールで無口な樹里が、こんなに熱くなるのを初めて見た。パラパラと部員が集まってきた。ハルはその場に棒立ちになつて、**⑥**ただただ沸点に達している樹里を見つめるだけだった。

「敵に、背中を見せたら、やられるんだよ！ なによ、いったん逃げだしたくせに、またのこの戻ってきて。ウザイよ！」
 ハルの目から涙があふれだした。まずい。ここで泣くのは卑怯だ。樹里を悪者にしてしまふ。止めなきや、止めなきや。そう思うのに、涙はまるで伏流水のようにまふたの奥からあふれてきて、どうしても止めることができなかった。

「樹里、言いすぎちゃう？」ハルだって、いろいろ考えたと思う

よ。そのうえで帰ってきてくれたんだよ」

「出たり入ったりされたら、迷惑だよ。チームワークが乱れる！」
 パシッと樹里は、グラブをマウンドにたたきつけた。そしてそのまま部室の方角に駆けていった。

「樹里！」グラブを拾うと、急いでトンコたちがあとを追った。
 「……ハル、ごめんね」

一人残ったマルちゃんが、ためらいがちにハルのジャージに手を伸ばした。あわててハルは、こぶしで涙をぬぐった。

「マルちゃんが、謝ること、ないよ。樹里の言うとおりでよ」
 ひくひくしゃくりあげてしまうのが、恥ずかしかった。

「そんなことないって。戻ってきてくれてうれしいよ。ハル、勇気があると思うよ」

マルちゃんのやさしい言葉に、止まっていた涙がまたあふれだした。でもそれは、自分のための涙とは、少しちがう気がした。思ってもいなかった樹里の、過剰ともいえる反応にびっくりしたし、迷惑という言葉に傷つきもしたけれど、きつい言葉を投げつける樹里の、泣きだす寸前の子どものような瞳に心動かされていた。樹里とではないけれど、たがいに泣きながら取っ組み合ってた。樹里は、幼い頃のけんかの爽快さを思い出していた。「なに考えてるんだらう」って、悶々としていたときより、ずっといい。少なくとも樹里は、心のうちをさらけだしてくれた。

出典 八束澄子『おたまじゃくしの降る町で』
 (注) フィールドイング…守備

① ——の部分**⑥**・**③**・**④**の漢字の読みを書きなさい。

② 「**③**樹里は今、ぎりぎりのところで自分を支えているのだろう」とあるが、このような樹里の様子を、直喩を使って表現している一文を文章中から抜き出して、はじめの五字を書きなさい。

③ **④**に入れる、「思うままに現れたり消えたりすること」を意味する四字熟語として最も適当なのは、ア～エのうちではどれか。一つ答えなさい。

- ア 千差万別 イ 千変万化
 ウ 変幻自在 エ 自由自在

④ 「**⑥**ただただ沸点に達している樹里を見つめるだけだった」とあるが、樹里がこのような状態になった理由を、五十文字以内で書きなさい。

⑤ 「**⑥**ハルだって、いろいろ考えたと思うよ。そのうえで帰ってきてくれたんだよ」とあるが、ハルがソフトボール部に帰ってきた理由について説明した次の文の **□**A・Bに入れるのに適当な言葉を、文章中からAは二十八字、Bは十三字で抜き出して、それぞれはじめの五字を書きなさい。

樹里が抱えている問題はハルが **□**A ではないと気づき、自分の気持ちと真剣に向き合って **□**B と心に決めたから。

⑥ この文章の内容について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれか。一つ答えなさい。

- ア ハルは久しぶりの練習でボールに触れる喜びを実感し、再びキャッチャーとして活躍したいと意欲を燃やしている。
 イ 普段はクールで無口な樹里の率直な心の叫びを聞いたことにより、ハルの心にわずかながらも希望が芽生えている。
 ウ 部員たちが復帰したハルをとがめず温かく迎え入れたことが樹里の怒りに触れ、部内には不穏な空気が漂っている。
 エ ハルは樹里の予想外の反応に驚くと同時に、自分に対する痛烈な批判に心が傷つき、悲しみに打ちひしがれている。

No. 3
受験番号
算用数字

3 次の文章を読んで、①～⑥に答えなさい。

個人の心理の内奥を、おそらくしぐさはのぞかせるものである。無意識であればあるだけ、それはゆるがせにできないしるしなのである。同時に、しぐさは一つの文化である。社会のさまざまな集団にわたる伝承の文化である。個人は、個人としてのしぐさを持ち、さらにその底に集団に共通の、また社会に共通のしぐさをもつ。人間は言葉を交換することでコミュニケーションを成立させ、文化をもつように、無意識のうちに他人の身振り、しぐさをまねることで社会人となり、一文化の構成員となる。

——と、このように考えてくると、私たち日本の文化は、私たち日本人のどのようなしぐさによって表現されているのか。もつと正確にいうと、たがいにしぐさをまねあうことで、私たちはどのような文化をつくってきたのか。そういう疑問がわく。

日本人のしぐさということで私がまず思いつくのは「あいづち」である。この言葉のおもしろさにまずひかれる。『広辞苑』には「相槌・相鎚」鍛冶で、互いに打ち合わす槌」とある。鎚をトンカン・トンカンと打ち合わす快は、もはや私たちの日常生活からは遠く正月のもちつきの臼取りの愉快さえ、光景としても日々には遠ざかってしまった。

しかし、あいづちという言葉は、二人の共同作業の快味をよく伝えているようである。きねをつく人よりもむしろ、拍子おもしろく臼取りする人のほうが、仕事としてむしろおもしろいのではないだろうか。受け身の、従の立場のほうが、共同の仕事のなかで、より困難でより愉快味のある役割であるようだ。

スイス人のガスカール女史は、その「日本観察ノート」の中で日本人の返事のアイマイさを批判している。「日本人から、確かな『イエス』か『ノー』の答えを得ることは、全く不可能なことにゾクします。（中略）『ソー、ネー……』といい、頭をかくのです。とにかくこっちはそれでちつとも利口になるわけのものでもなく、依然として、なにがなにやらわからないままです。日本人とは、なんとややっこしい人でしょう！」

この指摘は別に独創的なものでも特異なものでもない。しかしそれだけに、^㉓私たち日本人の身振りの、したがって文化の、他国の人によつては理解されえない特異性を浮かび上がらせている。ふだん、私たちは気づかないが、人の話を聞くと、たえずあいづちを打っている。心の中であいづちを打っている人もいるし、大げさな身振りであいづちを打っている人もいる。無意識であるだけになかなか本人は気づかない。

ラジオ、テレビのプロデューサーがしろろろとの出演者に対して「教育」することの一つはこのあいづちを減らすことである。画面や声のあいづちの身振りや「そう」「はい」という表現は目ざわり耳ざわりである。客観的に観察すると、あいづちというのはなにかしら異様に同調的な態度をきわだたせてしまうのだ。客観的と言ったが、それはひよつとするとヨーロッパ人の目を私たちの客観の目の中に組み入れてしまったということかも知れない。

外国のビジネスマンが商取り引きにやってくる。何か懸命にまくし立てている。私たちのビジネスマンは相手の熱意に打たれ、思わずあいづちを打ってしまう。それは外国人には確実な「イエス」のしぐさとして理解される。そして同意のサインをとうとうことなつて、書類を取り出す。日本人はそれを見て、とても同意出来ないと言を横に振る。外国人は驚いて、なんと日本人には誠意がないのだから、平気でウソをつくというふうには評価する。

この誤解はかなり困ったものだ。私たちは論理と感情の世界を区別している。^㉔ケイヤクについて「イエス」か「ノー」と言うのは論理の世界である。会話においてあいづちを打つのは感情に基づく社会的表現である。この両者をタクミに組み合わせることで、むき出しの真実だけではない人間的世界に私たちは生きているのだ。

ヨーロッパでは相手の感情をくんで、いい振舞いをするを「タクト」と言う。一口にヨーロッパと言ってもいろいろある。

アメリカやスイスでは「タクト」は少ない。しかしウィーンやパリでは、日本の繊細に負けぬほどのタクトがある。これはどういうことなのか。アメリカやスイスは、異人種異言語が日常的に接触する国である。ウィーンやパリでは、共同の前提となる統一された文化がある。つまり暗黙の了解があるので、その暗黙の了解のうちに相手の感情をいたわることが可能なのだ。アメリカでは、まず論理を通さなければ異人種の間意見の一致を見ることはできない。複雑多様な諸国民が激しく交錯しあう現代世界では、ヨーロッパ型——というよりアメリカ型の「イエス・オア・ノー」が前提となることはやむを得ない事情もある。

しかし、共通の前提をつくる作業が今後数十年、数百年たつて地球上にあらわれたとき、微妙な「タクト」が価値を持たないわけではないし、まして日本の「あいづち」が愉快な共同作業の一つの原型として見直されぬとは限らない。

出典 多田道太郎『しぐさの日本文化』

（注）広辞苑：岩波書店が発行している、大型の国語辞典。

臼取り…きねで餅をつく合間に、臼の中の餅をこね返すこと。

① ———の部分㉔・㉕・㉖を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「㉔表現さ」の活用の種類は、ア、オのうちではどれか。また、活用形は、カ、クのうちではどれか。当てはまるものを、**それぞれ一つずつ**答えなさい。

- ア 五段活用 イ 上一段活用 ウ 下一段活用
エ 力行変格活用 オ サ行変格活用
カ 未然形 キ 連用形 ク 終止形
ケ 連体形 コ 仮定形 サ 命令形

③ 「㉓私たち日本人の身振りの、したがって文化の、他国の人によつては理解されえない特異性」とあるが、その具体的な内容について説明したものとして最も適当なのは、ア、エのうちではどれか。一つ答えなさい。

- ア 日本人は自らの感情に基づいて無意識のうちに思わずあいづちを打ってしまうという、共通のしぐさをもっていること。
イ 日本人のあいづちや同意の言葉は、外国人には異様に同調的な態度であるように感じられるため、不快感を与えること。
ウ 日本人は相手の感情を気遣うあまり、あいづちを打つて同意するふりをするという、誠意のない対応をしてしまうこと。
エ 日本人は人の話を聞くと、内容に賛同していなくてもあいづちを打つため、同意しているのだという誤解を招くこと。

④ 「㉔無意識であるだけになかなか本人は気づかない」とあるが、無意識のしぐさが示すものを、文章中から二つ、八字と二十字で抜き出して、それぞれはじめの五字を書きなさい。

⑤ 「㉔日本の『あいづち』が愉快な共同作業の一つの原型として見直されぬとは限らない」とあるが、このような筆者の主張の意味する内容について説明した次の文の□ A・Bに入れるのに適当な言葉を、文章中からAは十六字、Bは十字で抜き出して書きなさい。

今後、「あいづち」が鍛冶で□ A 行為のような□ B を伝える言葉として、その価値が見直される可能性があるということ。

⑥ 「アメリカやスイスでは「タクト」は少ない。しかしウィーンやパリでは、日本の繊細に負けぬほどのタクトがある。これはどういうことなのか」とあるが、筆者はこの問いに対する答えをどのように考えているか。八十字以上百字以内でまとめなさい。

4 次の文章は、与謝蕪村の俳句、白居易の漢詩『夜雨』『聞夜砧』の二節と、その解説文である。これらを読んで、①～④に答えなさい。

白居易と蘇軾。唐と宋のこのふたりの文人は日本で最も愛好された詩人である。親しみやすさといえば、李白や杜甫以上だったといってもいいかもしれない。なにしろ清少納言は「ふみは文集、文選」といつて、まっ先に『白氏文集』を挙げ、兼好法師も「文は文選のあはれなる巻々、白氏文集」と、おなじように白居易の詩文をすすめているほどであるから。そして宋の詩人のなかではだんぜん蘇軾である。蘇軾の『赤壁の賦』はどれほど愛誦されたことであろう。「春宵一刻値千金」という彼の『春夜』と題した詩は日本で知らぬ人がないほどだ。それを充分に意識してか、清少納言は「春は曙」といつて、蘇軾が賛美した春の宵に対し、春の曙の美しさを推賞した。そこで蕪村は両者の中を取って、こう詠んだ。

もろこしの詩客は千金の宵ををしみ、
我朝の哥人はむらさきの曙を賞す

春の夜や宵あけばのの其中に

蕪村

唐土の詩人蘇軾は春の宵を **㉑** にも値いするといいい、日本の歌人清少納言は反対に、春は曙、といっているが、それならわたしはひとつ、春の夜をすすめよう。宵と曙のちよどまんなかにある春の夜を——というわけである。

では白居易と蘇軾と、そのいずれをえらぶべきか。これは難問である。李白と杜甫のどっちを取るか、というようなものだ。私は後二者の場合は、なぜか李白のほうに心惹かれるのだが、白・蘇となるとすっかり迷ってしまう。私はふたりの詩句をかわるがわる思い浮べてみた。

松尾芭蕉は蘇軾よりも、むしろ白居易に傾倒していたようである。芭蕉という号も、おそらく白居易のつぎの詩が彼の心に刻まれているからではあるまいか。

早蛩啼復歇 早蛩啼いて復た歇み
残燈滅又明 残燈滅えて又明るし
隔窗知夜雨 窓を隔てて夜雨を知る
芭蕉先有聲 芭蕉先づ聲有り

じつに平易で、しかもすばらしい詩である。

コオロギが鳴いていたかと思うと、いつの間にか鳴きやんでいく。乏しい油の灯が消えそうになりながら、ときどきパツとあかるくなる。窓外の芭蕉に雨の落ちる音がきこえ、それでまた降りだした夜雨を知る——というのだ。私は凡兆の有名な句、「灰汁桶の雫やみけりきりぎりす」は、この詩から発想されたにちがいないと思う。むしろ、芭蕉の「芭蕉野分して盥に雨を聞夜哉」も。ともかく芭蕉は杜甫とともに白居易を愛した。『幻住庵記』の末尾に、「楽天は五臓の神を破り、老杜は瘦せたり」とある。『野晒紀行』にみえる「碓打ちて我にきかせよや坊が妻」という句も、おそらくつぎの「聞夜砧」と題した白居易の詩句を念頭に置いての作ではなからうか。

誰家思婦秋擣帛 誰が家の思婦か秋に帛を擣つ
月苦風凄砧杵悲 月苦え風凄く砧杵悲し

出典 森本哲郎『中国詩境の旅』

(注) 李白…中国、盛唐の詩人。

杜甫…中国、盛唐の詩人。

文集…白居易の詩文集『白氏文集』

文選…中国の詩文集。

愛誦…詩文を好んで口ずさむこと。

もろこしの詩客はむらさきの曙を賞す…「春の夜や」の俳句が詠まれた背景を説明した前書き。

曹娥…中国の孝女。

早蛩…早啼きのコオロギ。

芭蕉…バショウ科の多年草。

凡兆…江戸時代前・中期の俳人。

野分…秋から冬にかけて吹く、台風による暴風。

楽天…白居易(白楽天)。

碓…布を柔らかくしたり、艶を出したりするために、布をのせて打つ、木ま

たは石の台。

坊が妻…宿坊の妻よ。

① **㉑** に入れるのに最も適当な故事成語を、漢字四字で書きなさい。

② 「**㉒**知夜雨」とあるが、その理由を二十字以内で書きなさい。

③ 「**㉓**じつに平易で、しかもすばらしい詩である」とあるが、この詩の鑑賞文として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれか。一つ答えなさい。

ア 視覚や聴覚に訴えかけるような表現を用いて、秋の夜のみじみとした情感を描いている。

イ 水墨画のような枯淡な作風で、厳しい自然と向き合う作者の孤独な心象風景を描いている。

ウ 自然の現象を丁寧に描写することにより、深い憂愁に包まれた晩秋の風景を表現している。

エ 窓の外の景色に焦点を当てて、夜の闇の中に浮かび上がる幻想的な美しさを描いている。

④ 白居易が日本で愛されていたと考えられる理由について説明した次の文の **㉔** A・B に入れるのに適当な言葉を、文章中からAは十三字、Bは十五字で抜き出して書きなさい。

清少納言や兼好法師がそろって **㉔** A ことや、芭蕉や凡兆の俳句の中に **㉔** B だと推測されるものがあることから、白居易は日本で愛されていたと考えられる。

No. 4
受験番号
算用数字

国語 解答用紙

注意 字数が指定されている設問では、「、」「や」「。」も一ます使いなさい。

1

④	③	②	①
このアンケートの結果は、			アンケート
。			

2

⑥	⑤B	⑤A	④	③	②	①f	①c	①b
							んだ	け

3

⑥	⑤B	⑤A	④	③	②	①f	①e	①b	
					活用の種類				
						み		します	
					活用形				

4

④B	④A	③	②	①

受験番号
算用数字

計
※100点満点 (配点非公表)